

2023年7月28日所長会見 所感

- 福島第一原子力発電所の事故により、今もなお、大変多くの皆さまに、ご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、また、「核物質防護事案」や「安全対策工事の一部未完了」につきまして、地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご不安・ご不信を抱かせておりますことについて、深くお詫び申し上げます。
- 本日は、私から3点お話しさせていただきます。
- 1点目は、追加検査における4項目の課題の進捗状況についてです。お手元の資料の1ページ目をご覧ください。
- 不要警報について、図の①にあるとおり、平常時は継続して目標以下に削減することができております。
一方、荒天時は目標を上回ることもあります。監視要員の増員等により「監視体制の強化」を行い、適切に監視できる状態の構築・整備を進め、昨日も、大雪時に必要な除雪要員に加えて、今回の監視体制が組めるかの実動訓練を行っております。
- その他の3項目については、すでに仕組みを構築し、更なる改善を進めながら有効性評価を行っているところです。
- 2ページ目をご覧ください。先ほどお伝えした実動訓練についてです。訓練は防護直員各班にて行う要素訓練と、事務所・現場での動きも含めた発電所全体での実動訓練を行っております。

- 昨日の全体訓練では、まず、事務所において、天候状況を踏まえた監視要員や除雪要員等について発電所全体で招集判断を行いました。
次に、防護本部において、防護直員が警報発報の原因を確認し、不要警報か否かの判断を行えること、およびその判断に基づいて監視要員への指示が的確に行えることを確認しました。
そして監視要員についても、防護本部からの指示を受けて適切に対応できることを確認しました。
- 私から見て、監視要員についての配置や役割が見える化することで、監視状況が円滑に把握できるようになってきたと感じております。
- また、防護本部で確認を行っていた社長の小早川からは、「監視強化に関する要員の配置が目標時間内にできていたが、さらに時間を短縮できるような方法を検討するよう」指示がありました。
- 社長からの指示以外にも訓練を通して気づきはありましたが、不要警報に係る監視体制の更なる強化に向け、今後も訓練を繰り返しながら継続的な改善を図ってまいります。
- 2点目は、原子力規制庁による2022年度の原子力事業者防災訓練の評価結果についてです。
- 7月26日の原子力規制委員会において、今年2月に当所で行った、総合的な原子力防災訓練の評価結果として、14項目全てにおいてA評価をいただいております。こちらについては、緊急時対策所の指示のもと現場での訓練も伴ったものです。

- 2月の防災訓練では、森林火災、地震の外部事象に加え、プラントの機器が故障し、原子炉への注水手段を失い炉心損傷するブラインドシナリオのもと、森林火災の消火活動や、原子炉注水に向けた優先順位付けが的確に実施できるかを確認しました。
- このような総合的な防災訓練は、2014年度以降、シナリオを変えながら毎月1回以上の訓練を実施しており、福島第一原子力発電所の事故以降では、合計150回以上を数えます。
- また、それ以外にも、電源隊、注水隊、がれき撤去隊など個別の訓練については、3万回近い訓練を繰り返し実施しております。
- 今後も多様なシナリオによる訓練を継続的に実施し、有事における対応能力の向上を図り、発電所の目指す姿の一つである、「緊急時等の対応能力が十分であること」に近づくよう、歩みを止めることなく取組を進めてまいります。
- 3点目は地域共生活動についてです。
- 昨日は「ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会」の翌朝の清掃活動に原子力・立地本部長の福田や私をはじめ社員45名と、協力企業の皆さま52名の計97名で参加しました。
それ以外にも、7月は柏崎中央海岸や荒浜海岸での清掃活動にも参加しております。
- 8月も、地域のお祭りや清掃活動への参加を予定しており、柏崎・刈羽地域のために、地元の皆さまと一緒に汗を流したいと思います。

○ また、サービスホールにおいて8月5日から6日に夏休みイベント、11日から14日にお盆イベントを開催いたします。

夏休みイベントでの発電所見学ツアーでは、事務所内にあるシミュレータを用いた運転員の訓練の様子をご覧いただけますので、ぜひ多くの皆さまにお越しいただきたいと考えております。

○ こうした取組などを通じて、地域の皆さまとの交流を深め、地域に愛され、信頼される発電所を目指してまいります。

○ 私からは以上です。